

# ホスピタルアート 国際プロジェクト ～フランスと大阪・関西万博をつないで～

# フランス  
# ホスピタルアート  
# 大阪・関西万博



サント・マリー病院での制作の様子

## DATA

- **主な連携先・メンバー**  
パリ サント・マリー病院 医師 フロランス・ボンテ氏  
ひといろプロジェクト 川西 真寿実氏  
ホスピタルアーティスト・イラストレーター 馬場 千愛氏
- **活動地域**  
大阪府堺市・パリほか
- **活動期間**  
2025年1月～2026年1月
- **活動資金**  
堺市と関西大学との地域連携事業

## 目的

ホスピタルアートに関する国際的な連携、医療機関におけるアートの導入により、医療環境の向上に貢献する。

## 連携に至る経緯

2020年に堺市との地域連携事業でのZoomによる連続講演会において、フロランス・ボンテ氏らに講演していただいたことがきっかけ。

## 活動内容

2020年度堺市との地域連携事業において、医師フロランス・ボンテ氏がZoom講演を実施した。2024年3月亀井が関西大学出版部より刊行した『日仏対訳 フランス医療機関におけるアート』の中で、医師フロランス・ボンテ氏の講演録を収録し、関連事例を紹介した。2024～2025年度ひといろプロジェクトの企画において、亀井がボンテ氏を紹介。ボンテ氏が認知症治療の一環として行っているアートセラピーの一つとして、ひといろプロジェクトによる「老松」を飾るアート作成を高齢者に促した。高齢者たちが作成した「老松」のアートは、日本に送られ、9月18日に大阪・関西万博のイタリア館に、他機関による作品と共に展示された。パリの高齢者による取り組みの様子について、馬場千愛氏がイラストを描いた。

ラピーの一つとして、ひといろプロジェクトによる「老松」を飾るアート作成を高齢者に促した。高齢者たちが作成した「老松」のアートは、日本に送られ、9月18日に大阪・関西万博のイタリア館に、他機関による作品と共に展示された。パリの高齢者による取り組みの様子について、馬場千愛氏がイラストを描いた。



サント・マリー病院での制作の様子

出来上がった作品



イラスト 馬場 千愛

## 連携先からの一言

A la demande du Japon, les patients participant aux ateliers d'art-thérapie du service Mémoire et Fragilité se sont presque tous portés volontaires pour apporter leur contribution à la réalisation d'un arbre de longévité universel.

Travailler sur ce projet a fait, le temps de ces ateliers, tomber les murs autour d'eux, laissant le champ libre à leur imaginaire et à la joie de savoir que leurs productions seraient réunies à d'autres productions venues des 4 coins du monde dans un pays lointain.

日本の要請を受け、アートセラピーワークショップに参加している患者のほぼ全員が、普遍的な「長寿の樹（老松）」の制作に貢献するためにボランティアとして参加しました。

このプロジェクトに取り組むことで、ワークショップの間、彼らの周りの壁は取り払われ、想像力と、自分たちの作品が他の作品と合わさるという喜びが自由に広がりました。

(パリ サント・マリー病院 医師 フロランス・ボンテ氏)

## 活動の成果

- ≫パリの病院における認知症治療への貢献
- ≫大阪・関西万博の国際プロジェクトへの貢献
- ≫日本のホスピタルアート団体への貢献

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ≫さらなるパリの事例の紹介
- ≫「日仏対訳 フランス医療機関におけるアート」（関西大学出版部 2024年3月）を補完する事例紹介

社会安全学部 教授 亀井 克之 Kamei Katsuyuki



専門は経営学・リスクマネジメント論。博士（商学）。フランス DEA（経営学）。日本リスクマネジメント学会理事長。ファミリービジネス学会理事。特定非営利活動法人コミュニアル理事。

